観光ボランティアガイドつるが　広報誌　第35号　　令和3年4月1日発行

ゆりかもめ
yurikamome

金ケ崎緑地。「ぐるっと敦賀周遊バス」で敦賀駅から10分。
休日には子供たちの楽しそうな声、走り回る姿も見えます。
左奥に敦賀ムゼウム、山の中腹には金崎宮、右奥の方向に
「日本遺産構成文化財　ランプ小屋」があります。

ゆりかもめ 第３５号発刊に寄せて　　敦賀市長　渕上　隆信

観光ボランティアガイドつるがの皆様には、日頃より市内外から訪れるお客様への心温まるおもてなしをいただいていることに、心からお礼申し上げます。

敦賀市では昨年6月に「海を越えた鉄道　～世界へつながる鉄路のキセキ～」のストーリーが日本遺産に認定されました。平成２９年の北前船寄港地・船主集落ストーリーに続く2件目の日本遺産となります。また、１０月には国道８号線２車線化が完成、１１月には人道の港敦賀ムゼウムがリニューアルオープンするなど北陸新幹線敦賀開業に向けたまちづくり、観光資源の磨き上げに努めております。

しかしながら、昨年から今日に至るまで新型コロナウイルスが猛威を振るっており、新幹線開業が延期となるなど観光業においても厳しい日々が続いております。このような情勢ではございますが、今後も歩みを止めることなく機運醸成に努めてまいります。「鉄道と港のまち敦賀」として、市全体を盛り上げていくには観光のプレイヤーであるボランティアガイドの皆様のお力が必要不可欠です。

これからも敦賀に訪れていただくお客様に笑顔になっていただけるよう変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ガイドつるがのメンバー一同、渕上市長からの激励の言葉を胸に、これからも「おもてなしの心」をもってお客様をお迎えしてまいります。

ごあいさつ　　特定非営利活動法人　THAP（タップ）理事長　池田 裕太郎

平素は皆様に連携活動などご支援ご協力を頂き誠にありがとうございます。

THAP（タップ）は、おかげさまで昨年に設立20年を迎えることが出来ました。これも皆様のおかげだと感謝しています。昨年末にSDGsの達成に貢献できる団体として宣言し、THAP独自はもちろん、地域の様々な関係団体や行政とも連携や協力をして、持続可能なまちづくりを進めて行きたいと考えています。現在の我々の活動は新幹線敦賀開業に向けて「つるがおもてなし隊」の継続活動、金ヶ崎緑地の定期清掃、日本遺産の鉄道遺産ストーリーを活かした3市町官民連携の活動、敦賀市公認キャラクターツヌガ君の運営などを行っています。

我々が目指すまちづくりは我々や行政と各種団体とが手を繋ぎ連携して得意とする分野を担当し生かし行動をすることで目的を達成できると考えています。新幹線敦賀開業はあと３年しかありません。

我々に出来る事で今後も貢献して敦賀の活性化にお役に立ちたいと考えています。今後とも引き続き宜しくお願いいたします。

INFORMATIONs

☆敦賀市立博物館

浦島太郎の伝説を絵画化した「浦島図」

館蔵美術展示「琳派の美」
令和３年４月３日（土）～５月７日（金）
市立博物館が所蔵する、「浦島図」などの琳派の絵画作品が展示されます。華やかで優美な世界のひと時を楽しまれてはいかがでしょうか。

☆福井県立歴史博物館

写真展「さくら咲く・ふくいの春～絵葉書でふりかえる～」
令和３年３月１日（月）～４月２７日（火）

企画展「１９６４・東京五輪とそのころの福井」
令和３年５月１日（土）～６月１３日（日）
１９６４年に開催された東京オリンピック関連の資料と、そのころの福井の出来事や、人々の暮らしぶりに関する資料が展示されます。

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受付けています。申込み用紙は、下記のアドレス（敦賀観光案内サイト浪漫敦賀）からダウンロードし、必要事項を記入していただいた後、敦賀観光協会宛てにお送りください。

敦賀観光協会　TEL　0770－22－8167
FAX　0770－22－8197
http://www.turuga.org/index.html

ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に来られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが　TEL　0770－21－0056
敦賀観光協会　TEL　0770－22－8167

編集後記

本広報誌「ゆりかもめ」は、平成24年10月に創刊、季刊で発行して第35号になります。手に取り読んでもらえるようにと願い作成しています。

今回は、認定された日本遺産構成文化財の一つ「ランプ小屋」の紹介やコロナ禍においても様々な工夫のもと敦賀を盛り上げる取組み、行事についても紹介しています。

渋沢栄一氏が活躍した時代、敦賀も大きく変わって様々な形で歴史遺産が残っています。水戸烈士の方々の物語にも触れることが出来ます。

日本海側で最初の鉄道の敷設、多くのトンネルの建設を始め、この地が様々な形で発展し大陸との行き来も盛んになり、その中で様々な物語が生まれました。敦賀で活躍された大和田荘七翁の事も決して忘れてはならないと思っています。

歴史・遺産を大切にしつつ、北陸新幹線敦賀開業に向け、更なる発展のため取り組んで行きたいと思います。（将）

発行者：観光ボランティアガイドつるが　連絡先：〒914-0079　敦賀市港町１－25　敦賀鉄道資料館（旧敦賀港駅舎）　TEL・FAX　0770-21-0056

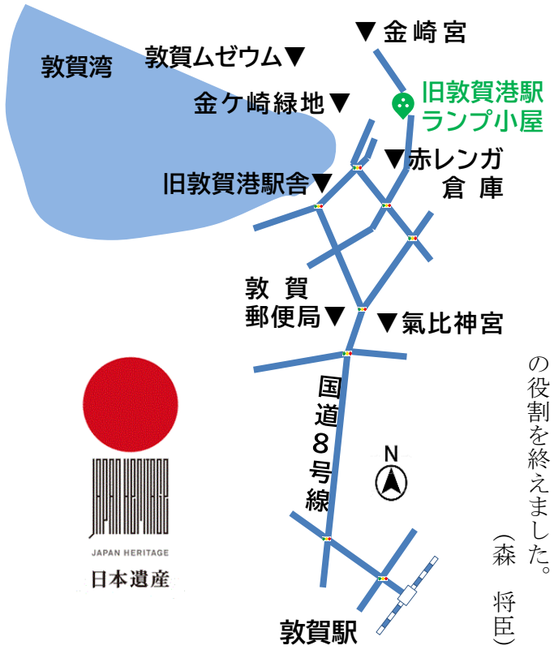
観光スポット紹介

「日本遺産」 鉄路のキセキ ③

敦賀市、南越前町、長浜市にまたがる旧北陸線沿いの鉄道遺産の魅力を伝えるストーリー『海を越えた鉄道～世界へつながる鉄路のキセキ～』が昨年6月、「日本遺産」に認定されています。今回は「ランプ小屋」を紹介します。

旧敦賀港駅ランプ小屋、この建物は、敦賀と長浜間に鉄道が敷設された明治15年（1882年）11月に竣工し、旧長浜駅舎と並び国内に現存する最古の鉄道建築物の一つです。

元々、日本貨物鉄道株式会社殿が所有していたものですが、平成26年に敦賀市へ建物が寄附され、平成26、27年に瓦葺きへの復元や、レンガの目地補修などの修復、復元工事を行い当時の姿を再現しています。また、当時のランプ小屋の内部を復元した展示を行っています。



明治15年3月から、金ヶ崎駅を朝六時に出発する列車が運行されましたが、当時、電灯はまだ鉄道には用いられず、大量の石油ランプが必要でした。これらのランプの管理は、安全な汽車運行に不可欠であり、当時の鉄道規則において、灯火の注油はランプ小屋内で行うこと、灯火管理の責任は駅長自らがとることとされていました。

このランプ小屋は、横浜、京都に次ぐ全国で3番目の大きさを誇る建物でしたが電灯が用いられるようになり、その役割を終えました。

（森　将臣）

鉄道カフェ

3月13日、松原公民館にて鉄道カフェを開催しました。鉄道カフェは、「港と鉄道の街つるが」を広く市民の皆様に知っていただくことを目的とし、平成26年度から開催し今回で21回を数えます。

「日本遺産認定　現存する日本最古の鉄道トンネル　日本人だけで作ったトンネル群」と題し、福井工業高等専門学校の武井幸久名誉教授を講師にお迎えし、42名の参加者が熱心に聴講しました。↘

↖講演では、敦賀に何故かくも早く鉄道が敷設されたのか、歴史の見方、考え方の解説に始まり、日本の推移と敦賀の幕末の情勢分析、「近代」の概念の解説、近代と鉄道の歴史へと話しが展開されました。

その後、日本の鉄道の父と言われる井上勝の言葉「トンネルは日本人だけの手で」を引用され「小刀根トンネル」「柳ヶ瀬トンネル」の建設にかかるお話しなど様々な興味深いお話をいただきました。

講演のスライドには、「消極的な能動性」「積極的な能動性」の文字とともに「近代、そのとき敦賀人は？」「あなたはどっち？」「鉄道建設は国策？」との問題提起もあり、「つづく」のスライドで締めくくられました。

令和3年度も鉄道カフェを継続的に開催する計画です。皆さんのご参加をお待ちしています。

（森　将臣）

ガイド発表・交流会

3月11日、福井県観光連絡協議会の主催により、大野市の「結とぴあ」にて「福井の語り部ガイド発表・交流会」が開催され、11団体52名が参加しました。県内の観光に関わるボランティアにとって、石山大野市長、各来賓の歓迎のご挨拶を始め、発表会、交流会などを通し、“知識と交流”“団結と郷土愛”を学ぶ大変有意義なものでした。

残雪の山々に囲まれた盆地に位置する大野城のロケーションの良さなどもさることながら、「金森長近」「土井利忠」などの郷土の偉人を誇りとして、市内を整備し朝市文化を守り続ける市民の矜持のようなものを強く感じました。

ある小説に『未来は常に過去を変えている』との言葉もあります。私も更に敦賀の歴史と文化を学びながら、敦賀の過去と今の自分を変えるような発見をしたいと強く思い直しています。

（浜　康行）

まちゼミを垣間見て

敦賀では3回目の開催となった「まちゼミ」ですが、約20年前に愛知県岡崎市で始まったイベントと言われています。今回のまちゼミはコロナ禍での開催ということもあり、参加人数や場所に制限を設けて、また、一部の講座ではオンライン形式で行われるなど様々な工夫が施され、多くの方が楽しく参加されました。

敦賀のお店で学ぶ、日々の暮らしをちょっと楽しくするミニ講座「まちゼミ」が、今年は2月3日から3月15日まで開かれました。お店の人が講師となり、専門店ならではの知識や情報、コツを無料で教える少人数制のミニ講座、略して「まちゼミ」です。

酒屋さん「酒文化食文化ウタ」さんの日本酒・ワインの楽しみ方や豆知識の講座を取材しました。

「まちゼミ」のチラシ表紙（上）と取材時の様子（下）

当日は、午後6時半から4名の受講者の参加で講座が始まりました。ここの店主は、ワインのソムリエの資格をお持ちで、今日の講義は検定のテキストを抜粋したものを使い、かなり専門的な内容でしたが、わかりやすくフランスの地図でワインの産地を指し、そこでのワインの特徴、味や香りなど興味をそそるお話でした。実際にワインの試飲の機会も設けられ、参加者の中にはほろ酔い気分で少し赤い顔をされている人も。コロナ禍の昨今「家で飲むためにワインの知識が欲しかった」、「ドイツ製のワイングラスを買ったので、グラスに合うワインはどれかなと」など感想をお聞きしました。

まちゼミは、敦賀商工会議所、市商店街連合会の主催で3年前から行われており、他にも魚のさばき方、抹茶体験、フルーツカッテイング、季節の和菓子作り、ひな祭りのリースつくり、和柄（着物）のいわれの講座など色々なジャンルが豊富にありました。

次回のまちゼミ、皆さんも色々参加されてはいかがでしょうか。

（倉谷長武）

ガイドの活動と楽しい出来事

ガイドつるがの会員は、観光客の皆さんへのご案内等を行いながら、楽しい出来事も沢山経験しています。

今回は、広田節子会員のエピソードをご紹介します。

敦賀にダイアモンドプリンセス号が寄港した時のことです。多くの観光客は、フェリーからバスに乗って市内に向かい氣比神宮など訪問されたのですが、二人の外国の方が鉄道資料館に来られました。

朝の歓迎の挨拶でお迎えしたのですが、その先の案内は準備もしていませんでしたので、お互いに顔を見合わせて少々困っていました。そこに県外からの観光客イノさんが来られたので、英語での通訳をお願いしたところ快く受けていただき一緒に館内を案内しました。イノさんは、敦賀に宿泊されるとのことでしたので、夕飯に美味しいお寿司屋さんをご紹介しました。

翌日には関東に戻られたのですが、ダイアモンドプリンセス号が次に敦賀に寄港する予定などを案内所で確認されていたようで、フェリーの寄港時には、市内のボランティアの案内所にイノさんの姿がありました。外国の方が来られた時にはしっかりと対応されていました。コロナ感染が終息してイノさんが敦賀に来られる時には「気比の松原にも行ってみたい」とのご希望を叶えご案内したいと思っています。今回のような事がきっかけで敦賀を好きになっていただき、何度もお越しいただけるような楽しい、嬉しい出会いもあります。

これからも「おもてなしの心」を地元の言葉でつなげていきたいと思っています。

（広田節子）